

統計協会ニュース

<http://www.etisa.or.jp/>

第 151 号

令和 4 年 1 月 5 日

一般社団法人 経済産業統計協会

電話 03(3561)2974

FAX 03(3561)5212

目次

◎統計ニュース

- ・経済解析室ニュースより・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・鉱工業指数等の公表予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

◎協会の動き

- ・月例研究会の開催予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ・経済統計セミナーの開催予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

◎刊行物案内

- ・一般社団法人経済産業統計協会刊行物一覧(近刊・新刊情報)・・・・・・・・ 12

経済解析室ニュースより

統計ニュース

経済産業省調査統計グループ経済解析室で発信をしています「最新の鉱工業指数（IIP）と第3次産業活動指数のニュース」より一部を抜粋して掲載します。

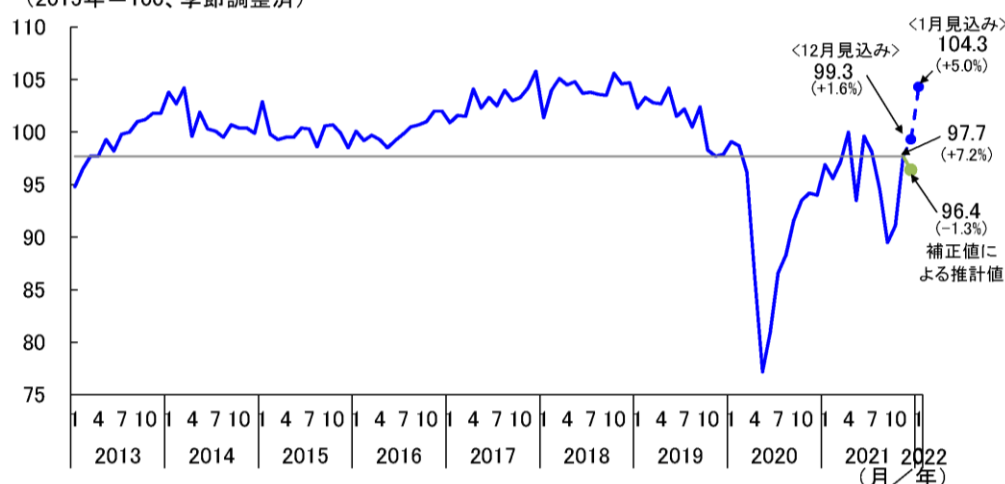
URL:http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/archive/mailmaga_index.html

- (1) 2021年11月の鉱工業生産は、季節調整済指数97.7、前月比7.2%と、2ヶ月連続の上昇となりました。

鉱工業生産指数の動向と先行き

・2021年11月の鉱工業生産指数は、97.7(前月比7.2%)と2か月連続の上昇。

(2015年=100、季節調整済)



(注) 鉱工業指数 (IIP) とは、月々の鉱工業の生産、出荷、在庫等を基準年 (現在は、2015 年) の12 か月平均=100 として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鉱工業全体の動きを示す代表的な指標
(注) 補正値は、製造工業生産予測指数がもつ傾向的な部分を修正し、実際の鉱工業指数の動きをより適切に把握できるように試算したもの

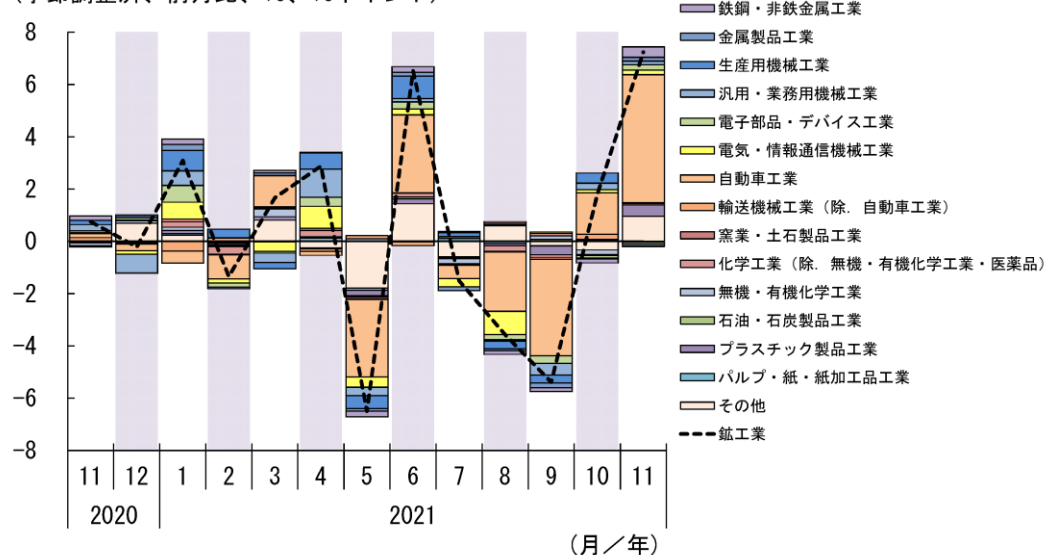
(2) 11月の鉱工業生産を業種別にみると、全体15業種のうち、11業種が前月比上昇、4業種が前月比低下という結果でした。

11月は、自動車工業を中心に多くの業種が上昇したことから、全体として上昇しました。

鉱工業生産前月比 業種別の影響度合い

・2021年11月の生産指数は、無機・有機化学工業などが低下したものの、自動車工業などが上昇したため、前月比7.2%の上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

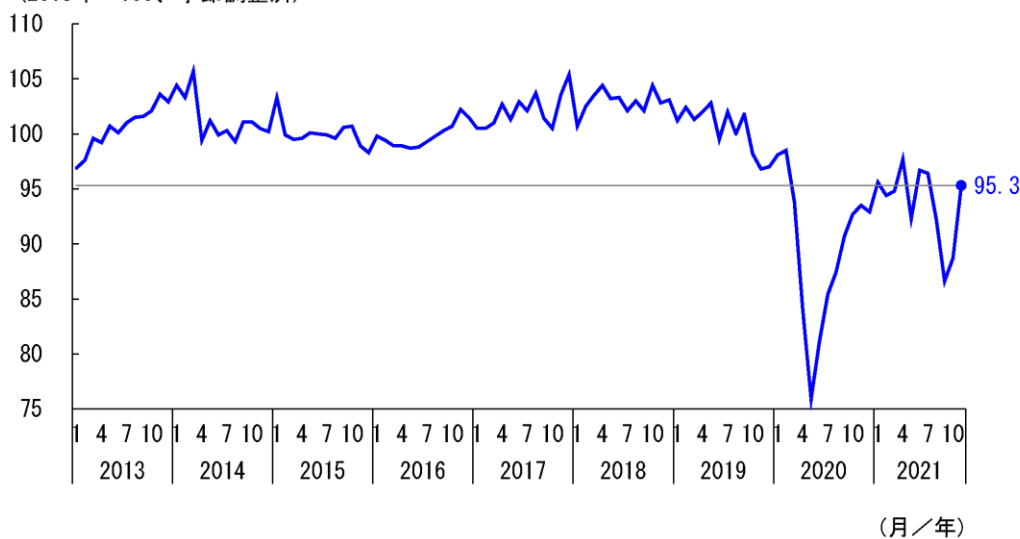


(3) 11月の鉱工業出荷は、季節調整済指数95.3、前月比7.4%と、2か月連続の上昇となりました。

鉱工業出荷指数の動向

・2021年11月の鉱工業出荷指数は、95.3(前月比7.4%)と2か月連続の上昇。

(2015年=100、季節調整済)



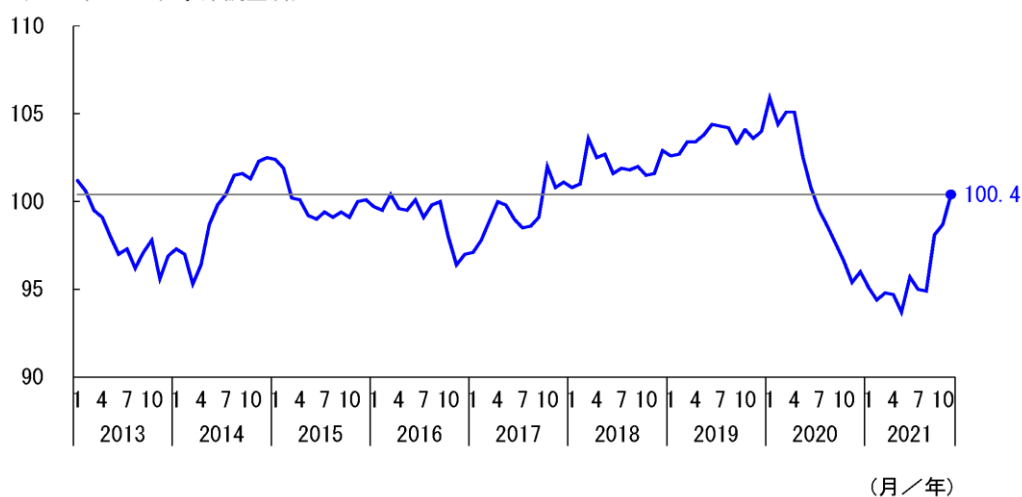
- (4) 11月の鉱工業在庫は、季節調整済指数100.4、前月比1.7%と、3か月連続の上昇となりました。

業種別にみると、15業種のうち、7業種が上昇、8業種が低下となりました。

鉱工業在庫指数の動向

・2021年11月の在庫指数は、100.4(前月比1.7%)と3か月連続の上昇。

(2015年=100、季節調整済)

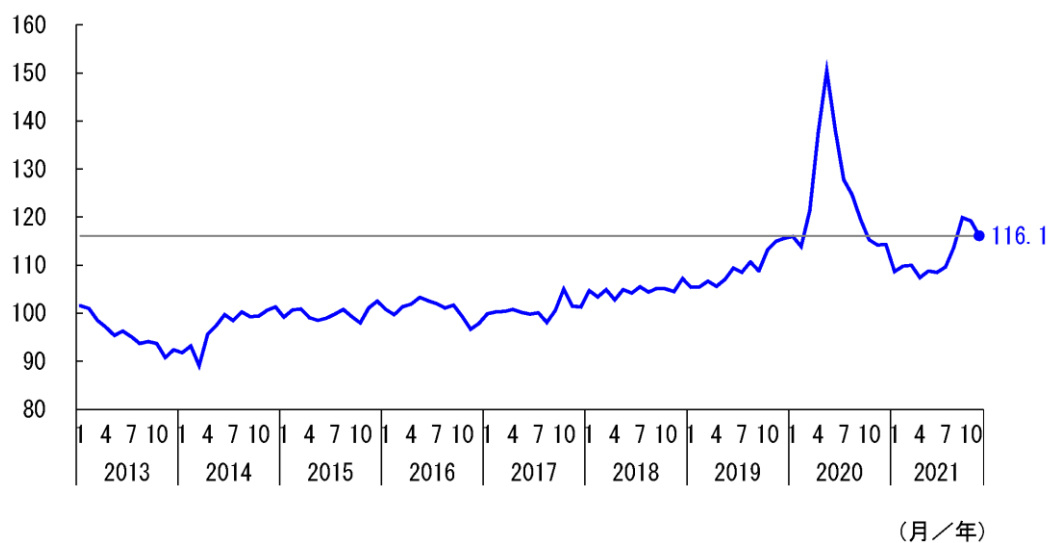


- (5) 11月の鉱工業在庫率は、季節調整済指数116.1、前月比マイナス2.6%と、2か月連続で低下しました。業種別にみると、15業種のうち、10業種が低下、5業種が上昇となりました。

鉱工業在庫率指数の動向

・2021年11月の在庫率指数は、116.1(前月比-2.6%)と2か月連続の低下。

(2015年=100、季節調整済)



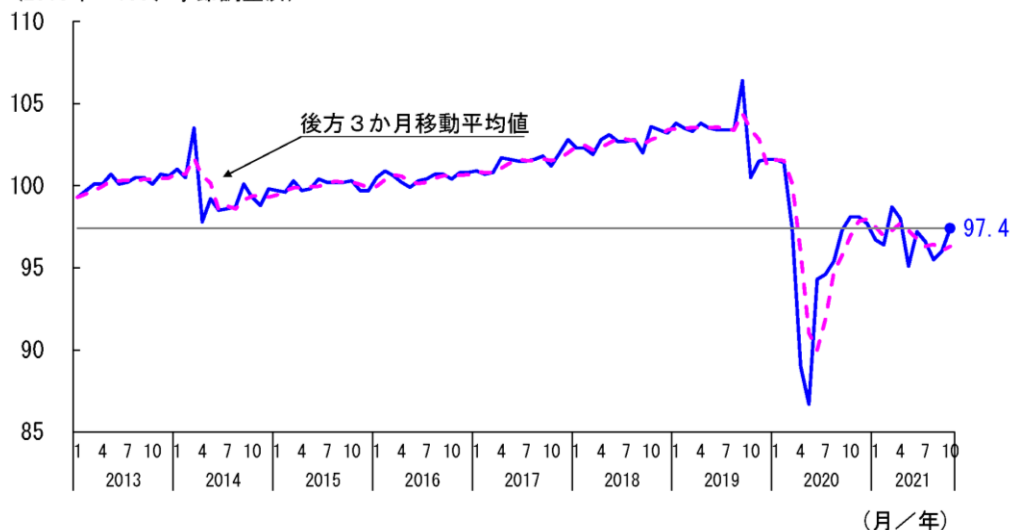
(6) 第3次産業活動指数の動向

10月のサービス産業（第3次産業）活動指数は、指数値97.4、前月比1.5%と2か月連続の上昇となりました。

第3次産業活動指数の動向

・2021年10月の第3次産業活動指数は、97.4(前月比1.5%)と2か月連続の上昇。

(2015年=100、季節調整済)



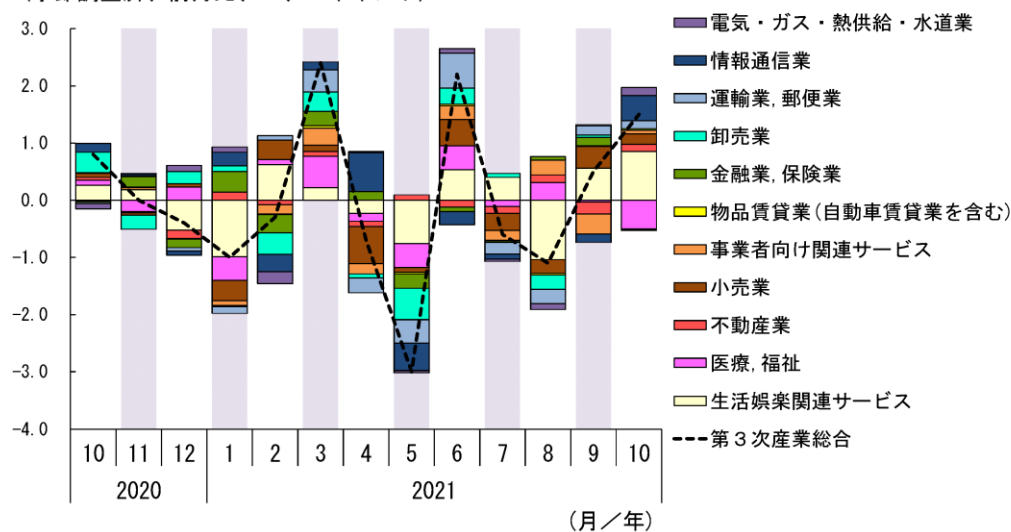
(7) 10月の業種別の動きをみると、11業種中、8業種が前月比上昇、3業種が前月比低下という結果となりました。

10月は、生活娯楽関連サービスや情報通信業などで上昇したことにより、サービス産業全体としては上昇することとなりました。

第3次産業活動指数前月比 業種別の影響度合い

・2021年10月の第3次産業活動指数は、医療、福祉などが低下したものの、生活娯楽関連サービスなどが上昇したため、前月比1.5%の上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



(8) 生活娯楽関連サービスは、前月比10.3%と、2か月連続の上昇となりました。

第3次産業活動指数を大きく動かした個別系列

・2021年10月の第3次産業活動指数は、97.4(前月比1.5%)と2か月連続の上昇。

	業種名	前月比	寄与度
○ 第3次産業総合を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい内訳業種	1位の業種 生活娯楽関連サービス	10.3%	0.85pt
	内訳業種 飲食店、飲食サービス業	26.3%	0.66pt
	内訳業種 宿泊業	41.2%	0.20pt
	2位の業種 情報通信業	4.5%	0.44pt
	内訳業種 情報サービス業	12.9%	0.55pt
	3位の業種 小売業	1.5%	0.18pt
○ 第3次産業総合を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい内訳業種	内訳業種 飲食料品小売業	1.9%	0.08pt
	内訳業種 機械器具小売業	7.0%	0.06pt
	1位の業種 医療、福祉	-3.5%	-0.50pt
	内訳業種 病院・一般診療所	-2.8%	-0.26pt
	2位の業種 物品賃貸業(自動車賃貸業を含む)	-0.9%	-0.02pt
	内訳業種 レンタル業	-2.6%	-0.02pt
3位の業種 卸売業		-0.1%	-0.01pt
	内訳業種		

寄与度：第3次産業全体の変動に対して影響を及ぼした、各業種の影響の度合い。上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きが横ばいの場合でも季節調整の関係で両者が一致しないことがある

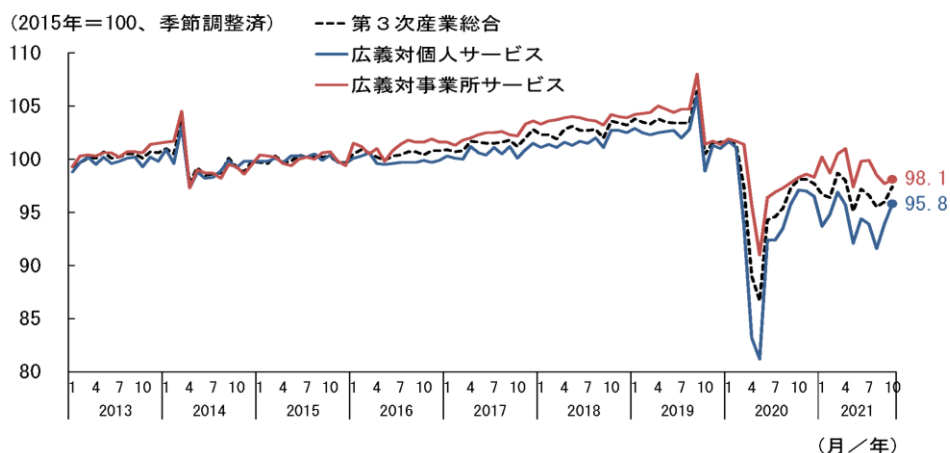
(9) サービス産業指数は、大きく「広義対個人サービス(以下個人サービス)」と「広義対事業所サービス(以下対事業所サービス)」に分けることができます。

10月の対個人サービスは、指数値95.8、前月比2.0%と2か月連続の上昇となりました。新型コロナウイルス感染症の影響が縮小したことなどを受けて、消費者の購買・サービス消費活動が回復し、対個人サービスは上昇しました。

また、対事業所サービスは、指数値98.1、前月比0.4%と3か月ぶりに上昇しました。対事業所サービスは、企業や官公庁の情報サービス投資が増加したことを受けて上昇しました。ただ、連続低下には歯止めがかかったものの、9月の低下幅を下回る上昇幅にとどまっており、対事業所サービス全体でみれば、依然として足踏みが続いています。

広義対個人サービス／広義対事業所サービス活動指数の動向

- ・2021年10月の広義対個人サービス活動指数は、95.8(前月比2.0%)と2か月連続の上昇。
- ・広義対事業所サービス活動指数は、98.1(同0.4%)と3か月ぶりの上昇。



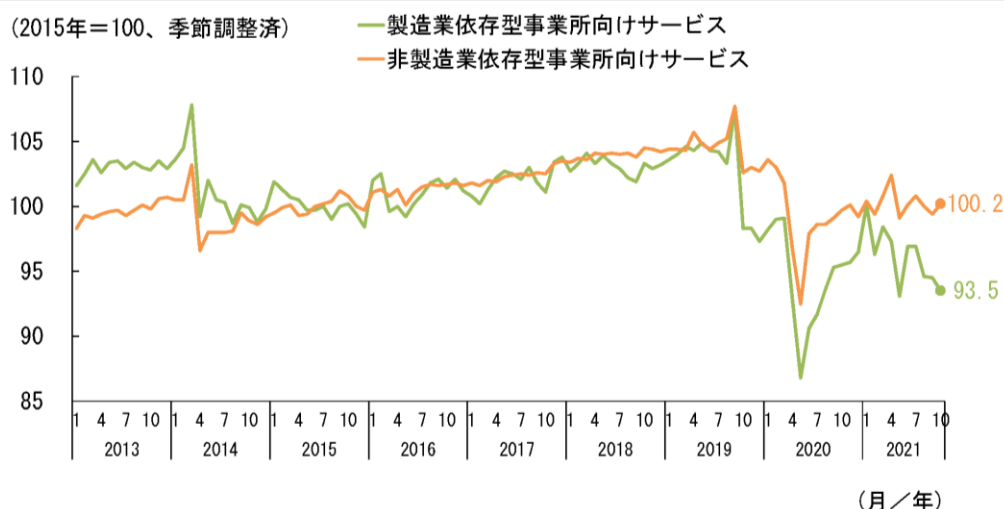
(10) 対事業所サービスは、製造業の取引先が多いか、そうでないかによって、「製造業依存型」と「非製造業依存型」に分けることができ、それぞれの指数を計算しています。

10月は、製造業依存型事業所向けサービスが前月比マイナス1.1%と3か月連続で低下する一方で、非製造業依存型事業所向けサービスが前月比0.8%と3か月ぶりに上昇しました。

非製造業依存型事業所向けサービスについては、新型コロナウイルス感染症の影響が縮小したことなどを受けて、事業者間での取引活動が上昇したものと思われます。

製造業／非製造業依存型 事業所向けサービス活動指数の動向

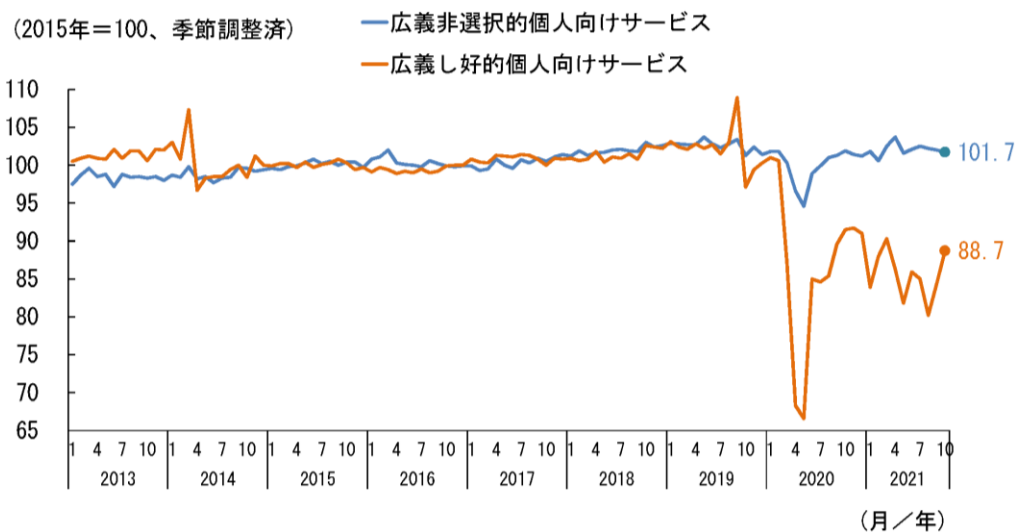
- ・製造業依存型事業所向けサービス活動指数は、93.5(前月比-1.1%)と3か月連続の低下。
- ・非製造業依存型事業所向けサービス活動指数は、100.2(同0.8%)と3か月ぶりの上昇。



(注) 広義対事業所サービスの内訳系列を、産業連関表の製造業と非製造業の投入比率の大小により、「製造業依存型」と「非製造業依存型」の二つに分類している

非選択的／し好的 個人向けサービス活動指数の動向

- ・2021年10月の広義非選択的個人向けサービス活動指数は、101.7(前月比-0.3%)と3か月連続の低下。
- ・広義し好的個人向けサービス活動指数は、88.7(同5.2%)と2か月連続の上昇。



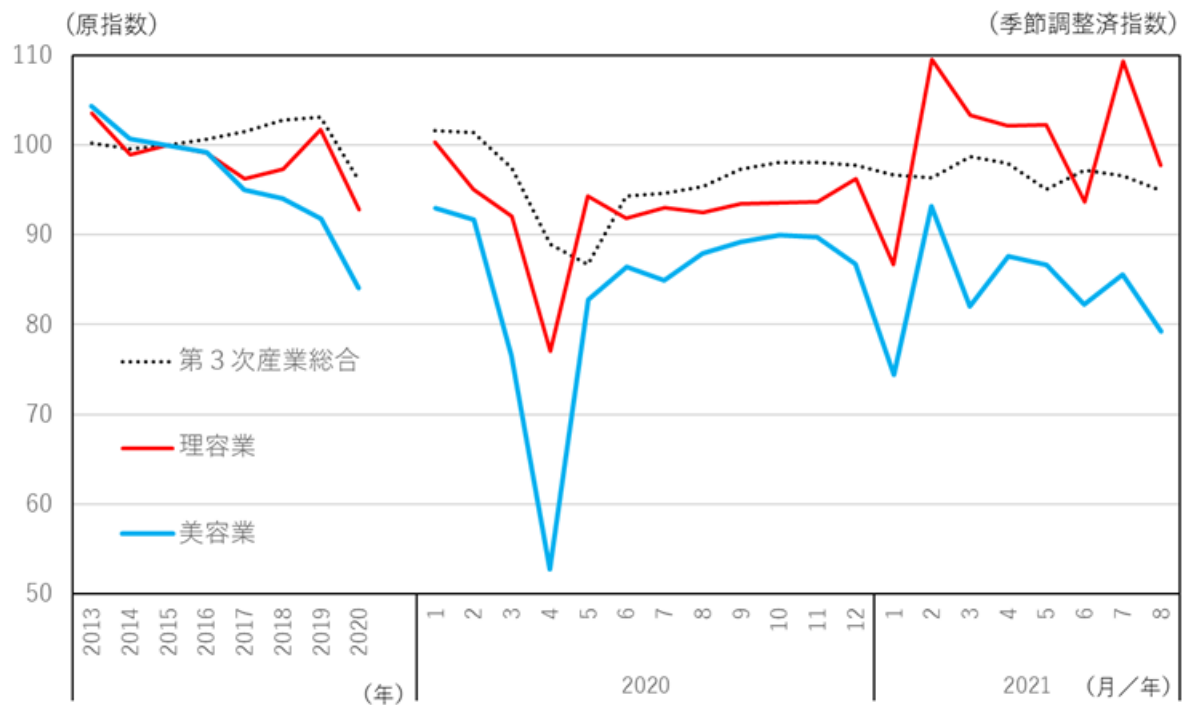
「美容」に関連する分析記事より

最近いつヘアカットに行きましたか？コロナ禍での理美容業を振り返ります

サービス産業の活動状況を表す指標である「第3次産業活動指数」で、新型コロナウイルス感染症の影響を最も大きく受けたのは「[生活娯楽関連サービス](#)」でした。「ひと言解説」では、これまでも生活娯楽関連サービスに含まれる様々な業種についてご紹介してきましたが、理容業・美容業もまたコロナ禍で大きく落ち込んだ業種のひとつです。

今回は、理容業・美容業の動きについて振り返ります。

コロナ禍での理容業・美容業指数の推移



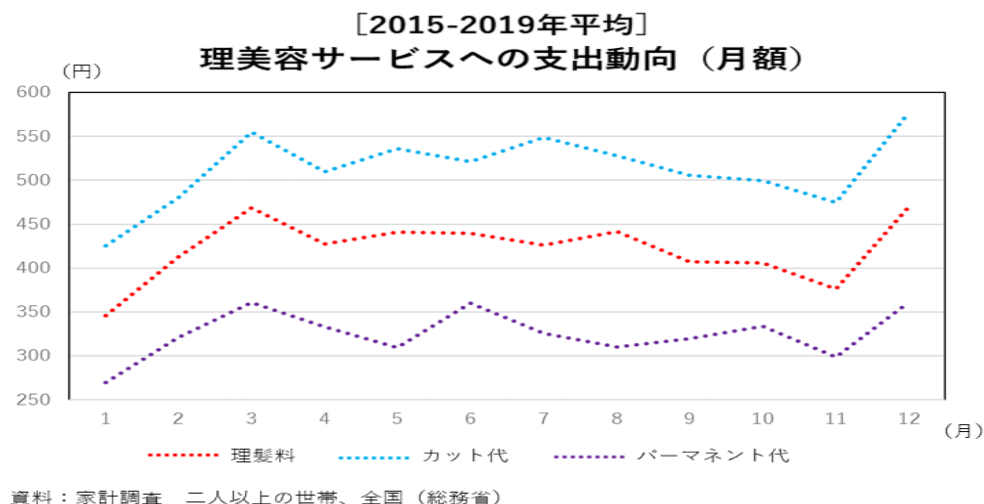
資料：第3次産業活動指数（経済産業省）

コロナ禍で支出は大きく変化！！

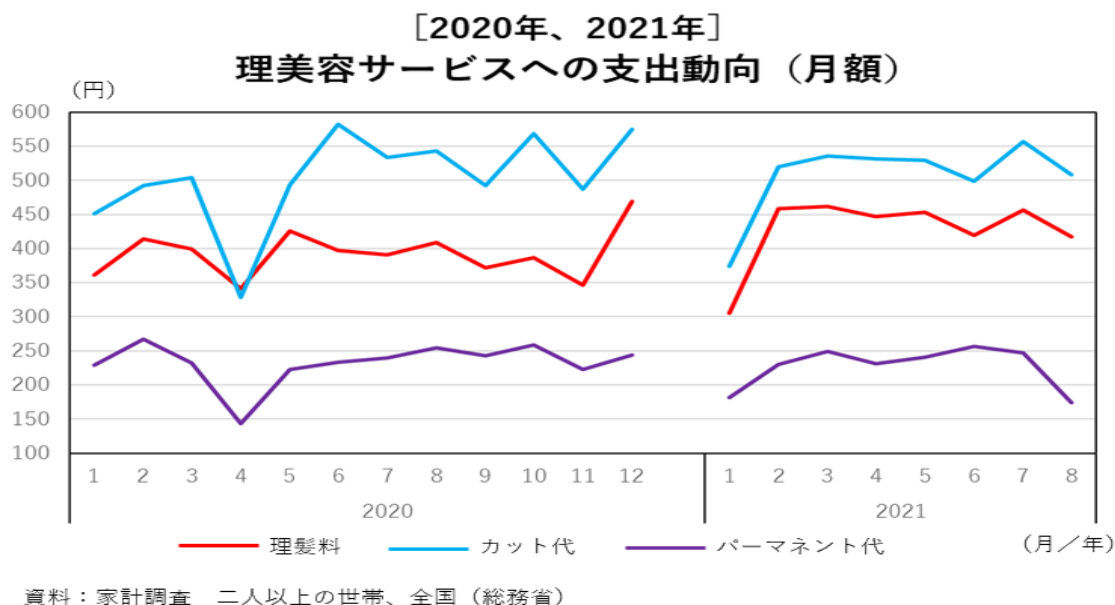
ヘアカットなどの理美容サービスを受けるタイミングは、「気になった時に」という方、「定期的に決めて行く」という方、様々ではないでしょうか。

コロナ禍前の 2015 年～2019 年におけるカット代やパーマ代、理髪料といった理美容サービスへの家計支出の状況をみると、年度終わりの 3 月と、年末の 12 月に共通して支出が増加する傾向がみられます。新年、新年度を迎える前に身だしなみを整えておこう、と意識する方が多くおられるようです。

そして、GW のある 5 月から夏本番を迎える 7 月にかけては、サービスによって時期が異なるものの上下する動きがみられ（6 月にパーマ代への支出が増えるのは梅雨時の湿気対策でしょうか）、夏の終わりから年末にかけては減少傾向、という年間の動きがあることがうかがえます。



新型コロナウイルス感染症の影響が出始めた 2020 年以降の支出状況をみると、1 回目の緊急事態宣言が出された 4 月は大幅に減少し、その反動と続く外出自粛等の影響で 5 月から秋頃にかけて例年と異なる動きがみられました。また 2021 年に入ってから、2 回目の緊急事態宣言下の 3 月は例年ほど増加せず横ばいとなる等、影響が続いていることがうかがえます。



パーマ離れ？過去10年間で見る理美容サービスへの支出トレンド

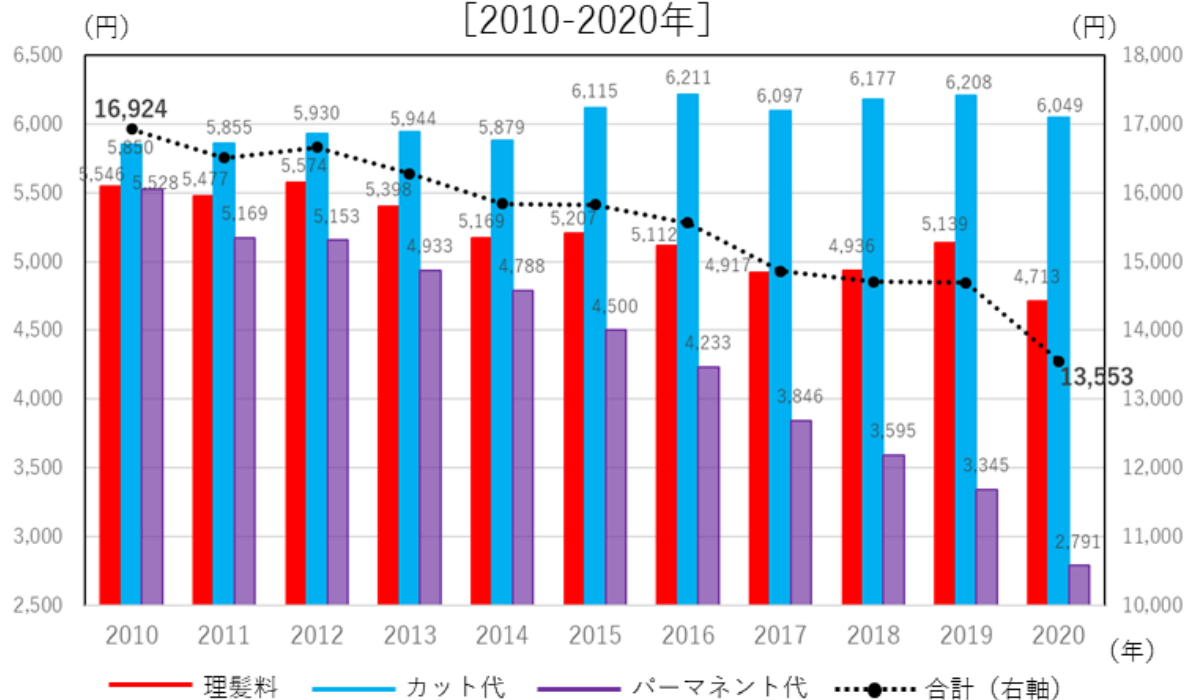
このように、2020年以降、理美容サービスへの支出にコロナ禍の影響が大きくみられましたが、長期的な支出傾向はこれまでどのように変化してきているのでしょうか。

理髪料・カット代・パーマ代への支出推移をみると、全体としては減少傾向にあることがわかります。個別にみると、カット代は増加傾向にあり、これは、美容室を利用する方が増加していること、また美容室の価格帯の二極化が進んでいるためと考えられます。他方で理髪料、パーマ代は年々減少しており、特にパーマ代は顕著にその傾向がみられます。

パーマ代の減少は、ヘアスタイルの変化や、自宅で使用できる美容家電の進化も一因なのかもしれません。

理美容サービスへの支出推移

[2010-2020年]

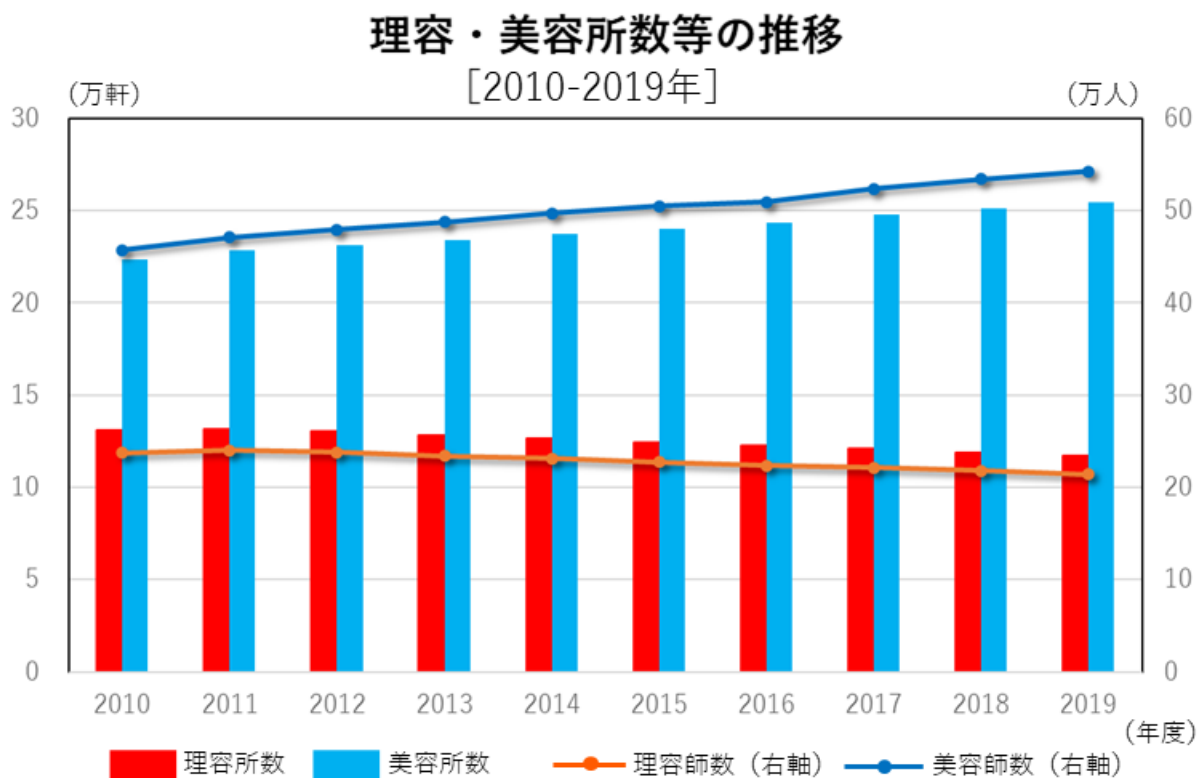


資料：家計調査 二人以上の世帯、全国（総務省）

美容業指数は低下傾向が続く

カット代のみをみるとここ 10 年間で増加傾向にあるものの、主力の美容サービスへの家計支出（カット代・パーマメント代）を基に作成される美容業（美容室）の活動状況を示す指標をみると（冒頭の「コロナ禍での理容業・美容業指数の推移」グラフ参照）、美容業指数は長期的に低下傾向が目立ちます。

美容室の数は増加を続けており、2019 年までの 9 年間で 3 万軒以上も増加しています。美容業指数が長期的な低下傾向にあるのは過当競争の影響が大きいのかかもしれません。



コロナ禍において、理美容業は休業要請の対象にはならなかったものの、例年と家計支出のピーク傾向が異なり、支出金額が減少するなど大きな変化がみられました。外出自粛の拡がり等により、来店を控える、来店間隔の長期化などの影響が考えられます。2021 年後半もコロナ禍の影響が続くことが予想されますが、回復状況を注視していきたいと思ひます。

鉱工業指数等の公表予定

鉱工業生産・出荷・在庫指数速報	3年	1 1 月分	1 2 月 2 8 日公表
		1 2 月分	1 月 3 1 日公表予定
製造工業生産予測指数	3年	1 2 月調査	1 2 月 2 8 日公表
	4年	1 月調査	1 月 3 1 日公表予定
商業動態統計速報	3年	1 1 月分	1 2 月 2 7 日公表
		1 2 月分	1 月 3 1 日公表予定
経済産業省生産動態統計速報	3年	1 1 月分	1 2 月 2 8 日公表
		1 2 月分	1 月 3 1 日公表予定
第3次産業活動指数	3年	1 0 月分	1 2 月 1 6 日公表
		1 1 月分	1 月 1 7 日公表予定

経済産業省調査統計グループが公表する統計調査の結果及び分析結果は、経済産業省ホームページの「統計」に掲載されていますので、以下のアドレスを検索することによりご覧いただけます。<http://www.meti.go.jp/statistics/index.html>

協会の動き

○月例研究会の開催予定（正会員のみ）

		日 時	場 所
令和3年12月分	令和4年	2月 1日（火）12：00～13：20	商工会館 6 F
令和4年 1月分	令和4年	3月 1日（火）12：00～13：20	商工会館 6 F

○経済統計セミナーの開催

令和3年11月19日（金）に一般財団法人産業人材研修センターと共催、一般社団法人経済産業調査会の後援で、下記により経済統計セミナーを開催しました。

日 時：令和3年11月19日（金） 14:00～15:30
 テーマ：経済産業省の主要指標から振り返るコロナ渦における我が国の
 産業活動と足下の製造業、第三次産業の動向
 講 師：経済産業省 調査統計グループ経済解析室長 竹永 祥久 氏
 会 場：産業人材研修センター（霞会館） 2F会議室

なお次回は、令和4年2月中旬の開催を予定しています。

刊行物案内

一般社団法人経済産業統計協会刊行物（近刊・新刊情報）

第50回 我が国企業の海外事業活動（令和3年12月7日発行）

本体 7,400円＋税

令和2年 鉱工業指数年報（令和3年11月12日発行）

本体 7,000円＋税

2020年 情報通信業基本調査報告書（令和3年11月9日発行）

本体 15,500円＋税

指数の作成と利用（第8版）（令和3年10月20日発行）

本体 3,600円＋税

2020年 経済産業省生産動態統計年報（令和3年9月30日発行）

・繊維・生活用品統計編

本体 8,700円＋税

・紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編

本体 7,900円＋税

・資源・窯業・建材統計編

本体 6,400円＋税

・鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計編

本体 9,000円＋税

【今後の発行予定】

2020年 経済構造実態調査報告書

二次集計結果【乙調査編】17分冊

価 格 未 定

2020年 企業活動基本調査報告書

価 格 未 定

正会員・賛助会員様は、特別割引（1割引）で承ります。
刊行物のお買い求めは一般社団法人経済産業統計協会へ

TEL 03(3561)2974 FAX 03(3561)5212

E-mail : Takeshi.etisa.or.jp

<http://www.etisa.or.jp>